

全港湾 第5 4期 中央労働講座

報告書

報告者

日本海地方 新潟支部
港運倉庫分会 小林将司

先ず最初に、今回の全港湾第5 4期中央労働講座を開催するにあたり、コロナウイルス感染が2類から5類に移行した事やGW明けの感染増加など、難しい判断が迫られる中、第5 4期生育成の為、準備から開催に至るまで多大な尽力頂いた事に感謝いたします。また、講座中の3日間は、殆どが若年層役員である私たちの為、分かりやすく丁寧に時にユーモアを交えながら、講義をして頂き重ねて感謝いたします。

以下、講義について報告させていただきます。

1日目は、鈴木龍一副委員長の「人材不足での離職対策におけるメンタルヘルス問題」について講座が行われ、昨今メンタルヘルスが社会的課題とされている要因と鈴木龍一副委員長の地元新潟での、メンタルヘルス障害を起こさせない為の対策、起きた時の対応、その後の職場復帰までのプログラムなど、実事例に基づいた講義が行われました。

講義を受け、私たち組合役員が重要視する事は、先ずは①組織強化による組合員とのコミュニケーション力の増幅→組合員の声が集まる体制作り、②現代の社会的課題であるメンタルヘルス問題に対して動こうとしない企業に対し労使協議を通じ制度を構築する事、③ハラスメント講習などの外部指導制度、④産業医、カウンセラー、専門医など専門家との連携によるケアを必要とする者への対応、⑤専門家と連携した復帰プログラムなど、労使一体となり制度整備に取り組む事が必要であると感じました。

2日目の1限目は、鈴木誠一委員長からは「全港湾・全国港湾の成り立ち」について講座が行われました。

第二次世界大戦終戦後の1946年にGHQ統治下における激動の時代に先輩方が全港湾を結成してから、近代化・機械化に伴う雇用不安や合理下に対し闘争を行い現在の雇用形態が構築されてきた事や、当時から魅力ある港湾労働を目指し、休みでは無かった日曜日・祝日の完全休日化を勝ち取る為に全港湾含む港湾労組の連絡会議が団結された後、1972年の全国港湾の結成へ繋がった事、そして同年、日本港運協会との産別団体交渉権を確立してきた事を教わり、2限目は、畠山副委員長から「港湾運送事業法と港湾労働法の成り立ち」について講座が行われ、第二次世界大戦終戦後から日雇い労働者、多重下請け構造、長時間労働など無秩序だった港湾労働のあり方を労働組合（全港湾）自らが、港湾労働法案を国会へ答申し作り上げてきたものと知る事が出来ました。

1限目の「全港湾・全国港湾の成り立ち」、2限目の「港湾運送事業法と港湾労働法の成り立ち」共に、今現在の私たち組合員の職域、雇用形態の成り立ちと基盤を知る事が出来き、特に若年層組合員への教宣運動へ繋げる事が出来ると感じました。

3日目は、橋崎副委員長から「詫間港運闘争から学ぶ団結の必要性」について講座が行われ、2010年から香川県支部委員長に就任してからの闘争の事例を基に講義が行われました。

前任から引き継いだ労使関係（社長と委員長のトップ交渉のみ）を変え、それまで無かった組合集会の開催から組合員との団結を図り交渉する体制へと整備し、詫間港運社のユニオンショップ協定違反や最賃協定違反から始まり、その後、裁判闘争へと発展していく大闘争を勝利した経験と、一方で闘争中も会社からの組合潰しや組合員の切り崩し等をやられた事に対し、現在もいかに日頃から組合員への活動報告や運動の理解を深める事が大事かという橋崎副委員長自らの振り返りを講義頂き、運動を緩めれば直ぐに組織弱体化に直結するという事を学ぶと同時に危機感を覚えました。日頃からの職場集会、団結を怠らずに運動行わなければならないと感じました。

全日の各講義後段では、グループ討論会とグループ毎の発表があり、各地方・支部・分会において講義内の課題とリンクする事例など情報共有と取り組みを進める為の意見交換を行い、グループ毎に纏めた内容を発表しました。

初めて顔を合わせる仲間達と共に、課題共有～目標設定～行動指針～役割分担～外部発信という一連の流れを経験する事が出来、非常に勉強になりました。チームワーク構築やグループ討論での内容や発表については、課題が残ったと感じていますが、これから共に闘う仲間たちと連携して行動していく事へのキッカケとなり良い経験であった捉えております。

加えて、夕食懇親会にも各テーブルに本部3役と松田書記にも着いて頂き、より近い距離から激励を頂きながら、参加者全体が二晩で距離を縮められる機会になったと感じています。

まとめになりますが、3日間を通じて、鈴木誠一委員長、鈴木龍一副委員長、畠山副委員長、橋崎副委員長からは各講義から学ばせて頂き、また、松永書記長からは学びを伝える事＝組織強化の重要性を学ばせて頂き、これからはこの3日間で学んだ事を職場発信・展開する為に自己の勉強も怠らずに取り組んでいきたいと思っております。

そして、鈴木誠一委員長が仰られた組合員に日頃から声を掛けて、より身近な役員と思ってもらえる事、コミュニケーションを自らが取りに行く事が第一歩だという事を忘れずに、1人は全員の為に全員は1人の為に、全港湾の産別力を生かせる・高められる運動を目標に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、大変貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

以上、報告とさせていただきます。